

スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会（全国大会）で 3年理数科の生徒が奨励賞を受賞しました

令和3年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会が8月4日(水)、5日(木)、神戸国際展示場で開催されました。本校からは、小川香樹実さん、小関茉依さんが「キッチンを用いた医療用素材の研究」というタイトルでポスター発表をしました。その結果、全国224校が実施したポスター発表のうち、上位7校から12校に与えられる奨励賞を受賞しました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催でしたが、本年度は感染対策をしっかりと行った上で、ポスター発表の実施となりました。

高田高校は令和元年度のポスター発表賞、令和2年度の審査委員長賞に続き、3年連続の受賞となりました。小川香樹実さんと小関茉依さんに受賞の感想と、後輩へのアドバイスを聞きました。



感染対策を行った上でのポスター発表

小川香樹実さん

奨励賞だと知った時は、とても驚きました。それと同時に、研究を進めることは大変だったけれど、今まで頑張ってきて良かったと強く思いました。神戸での発表で一番大変だったことは、5分間という短い時間の中で、研究について分かりやすく相手に伝えることです。自分たちの考えていることを正確に知ってもらえるよう、構成などを作っていくのに苦労しました。また、研究を進める中では、自分たちで考え、今まで誰もやっていないと思われることをやるのが大変でした。初めは文献などを参考にしていましたが、次第に仮説を立て、それを実証していくことができるようになり、そこが一番成長できたところだと思います。一方で、今回の発表会に参加して良かったと思うことは、全国の多くの方と交流ができたことです。今までになかった新しい視点を獲得ことができ、刺激を受けました。課題研究という形での研究活動はもうありませんが、今後に生かしていきたいと思います。

小関茉依さん

私からは今後課題研究を進めていく1, 2年生の皆さんに、私の約1年間の経験から2つのアドバイスを送りたいと思います。まず1つめに、何があっても諦めないことが大切です。私たちの研究は去年12月の中間発表で先生方や大学の教授の方から、根本的な部分から厳しい指摘をいただきました。しかし、そこで諦めるのではなくもう一度文献を調べ直し、何とかやりぬくことができました。2つ目は、とにかく研究を楽しむことです。課題研究で一番大変なのはテーマを決めることです。私自身もそうでした。しかし、神戸での発表を終え、それまでの研究を振り返ると楽しかったことばかりで、これで終わってしまうのが本当に残念でした。どれほどあの時間が私にとって貴重だったのか改めて気づきました。研究は楽しんだもの勝ちです。大変なことも最後まで粘って諦めずに、そして何よりも楽しんで、これからも頑張ってください！！



2年生の課題研究、進行中です